

研究報告書

患者調査における総患者数推計の応用

—総外来患者の診療間隔の検討—

研究協力者 川戸 美由紀 藤田医科大学医学部衛生学講座講師
山田 宏哉 藤田医科大学医学部衛生学講座講師
三重野牧子 自治医科大学情報センター医学情報学准教授
研究代表者 橋本 修二 藤田医科大学医学部衛生学講座教授

研究要旨 患者調査における総患者数の新しい推計方法の応用として、総外来患者（入院患者と新来患者を除く総患者）の診療間隔について、傷病の特性、年次推移と年齢分布を検討することを目的とした。昨年度は2年計画の初年度として、患者調査を統計法第33条による調査票情報の提供を受けて利用し、必要なすべての集計を行うとともに、総外来患者の診療間隔の傷病の特性と年次推移を観察した。本年度は最終年度として、昨年度の集計結果を用いて、総外来患者の診療間隔を性・年齢階級別に観察した。2014年の総外来患者の平均診療間隔をみると、男性では0～19歳が36.4日、20～39歳が36.9日、40～64歳が39.5日、65歳以上が39.4日であり、40歳以上が39歳以下よりも長い傾向であった。女性ではそれぞれ36.8日、35.7日、39.4日、37.1日であり、40～64歳が長い傾向であった。これらの傾向には傷病による違いがみられた。昨年度と本年度の研究結果から、患者の診療間隔の動向把握等において、新しい推計方法による総外来患者の診療間隔を応用することが有用と考えられた。

A. 研究目的

患者調査の「再来患者の平均診療間隔」は、1日に受診した外来患者（その日に未受診の通院継続中患者を含まない）における診療間隔の平均である。これは、患者調査の対象患者（調査日に受診した患者）の診療状況を表す重要な指標であるが、一方で、いわゆる「平均診療間隔」を表さない。「平均診療間隔」は、1日の通院継続中患者（その日に未受診の通院継続中患者を含む）における診療間隔の平均を指す。患者調査の総外来患者（入院患者と新来患者を除く総患者）が、1日の通院継続中患者に対応し、その診療間隔の平均が「平均診療間隔」を表す指標とみなされる。

本研究の目的としては、患者調査における総患者数推計の応用として、総外来患者の診療間隔について、傷病の特性、年次推移と年齢分布を検討することである。

昨年度は2年計画の初年度として、総外来患者の診療間隔について、検討に必要なすべての集計を行うとともに、傷病の特性と年次推移を観察した。

本年度は2年計画の最終年度として、総外来患者の診療間隔について、性・年齢階級および傷病・性・年齢階級別に観察した。また、昨年度と本年度の研究結果から、患者の診療間隔の動向把握等における総外来患者の診療間隔の応用について有用性を考察し、総括した。

B. 研究方法

1. 総外来患者の平均診療間隔

総外来患者と一日外来患者の平均診療間隔はそれぞれ下式で与えられる。

$$\text{総外来患者の平均診療間隔} = \frac{\sum j \cdot (j \cdot X_j \cdot 6/7)}{\sum (j \cdot X_j \cdot 6/7)}$$

一日外来患者の平均診療間隔＝

$$\frac{\sum j \cdot (X_j \cdot 6/7)}{\sum (X_j \cdot 6/7)}$$

ここで、 j は診療間隔（日）、 X_j は再来患者数であり、診療間隔 j 日の総外来患者数、一日外来患者数はそれぞれ $j \times X_j \times 6/7$ 、 $X_j \times 6/7$ となる。 Σ は j で和を取ることを表し、 j の範囲は 1～91 日である。なお、再来患者の平均診療間隔は、診療間隔の範囲が 1～30 日の一日外来患者の平均診療間隔である。

2. 基礎資料と検討方法

昨年度の集計結果を利用した。基礎資料としては、1996～2014 年の患者調査を統計法第 33 条による調査票情報の提供（厚生労働省発統 0724 第 1 号、平成 29 年 7 月 24 日）を受けて利用した。傷病分類、年次、性・年齢階級の組み合わせごとに、診療間隔別の総外来患者数を集計した。集計結果から、総外来患者の診療間隔の分布と平均診療間隔を算出した。

総外来患者の平均診療間隔について、性・年齢階級別、および、傷病・性・年齢階級別に観察した。傷病は傷病大分類を用いた。年齢階級は 0～19 歳、20～39 歳、40～64 歳、65 歳以上とした。

（倫理面への配慮）

本研究では、連結不可能匿名化された既存の統計資料のみを用いるため、個人情報保護に係る問題は生じない。

C. 研究結果

1. 総外来患者の診療間隔分布

図 1 に、性別、2014 年の総外来患者の診療間隔分布を週単位に示す。ここで 1 週は 1～7 日、2 週は 8～14 日、・・・、13 週は 85～91 日である。総外来患者の診療間隔分布をみると、男性では、患者割合は 1～3 週が 7.7～9.0%、4 週が 15.1%と 5 週が 16.4%と山があった。その後、8 週が 7.5%と 9 週が 7.4%と小さな山があり、最後の 13 週は 5.5%であった。一方、女性では、男性とほぼ同様の分布であった

が、患者割合は 1～3 週が 8.7～10.0%とやや大きく、逆に 8 週が 6.8%と 9 週が 6.6%とやや小さかった。

図 2 に、男性における、年齢階級別、2014 年の総外来患者の診療間隔分布を週単位に示す。総外来患者の診療間隔分布をみると、0～19 歳と 20～39 歳が類似し、40～64 歳と 65 歳以上が類似した。患者割合は 40 歳以上が 0～39 歳と比べて、1～3 週が小さく、逆に 4・5 週と 8・9 週が大きかった。

図 3 に、女性における、年齢階級別、2014 年の総外来患者の診療間隔分布を週単位に示す。総外来患者の診療間隔分布をみると、患者割合は 40 歳以上が 0～39 歳と比べて、1～3 週が小さく、逆に 8・9 週が大きかった。とくに、65 歳では、患者割合は 4・5 週で大きく、11・12 週で小さかった。

2. 総外来患者の平均診療間隔

表 1-1 と表 1-2 に、男性における、2014 年の傷病大分類・年齢階級別、総外来患者の平均診療間隔を示す。全傷病の総外来患者の平均診療間隔をみると、0～19 歳が 36.4 日、20～39 歳が 36.9 日、40～64 歳が 39.5 日、65 歳以上が 39.4 日であり、40 歳以上が 0～39 歳よりも長い傾向であった。傷病大分類ごとに、年齢階級による違いの傾向をみると、全傷病とは必ずしも一致していなかった。たとえば、循環器系の疾患では、65 歳以上が他の年齢階級よりも短い傾向であった。

表 2-1 と表 2-2 に、女性における、2014 年の傷病大分類・年齢階級別、総外来患者の平均診療間隔を示す。全傷病の総外来患者の平均診療間隔をみると、0～19 歳が 36.8 日、20～39 歳が 35.7 日、40～64 歳が 39.4 日、65 歳以上が 37.1 日であり、40～64 歳が長い傾向であった。傷病大分類ごとに、年齢階級による違いの傾向をみると、全傷病とは必ずしも一致していなかった。たとえば、循環器系の疾患では、男性と同様に、65 歳以上が他の年齢階級よりも短い傾向であった。

D. 考察

総外来患者の診療間隔分布をみると、男性と女性ともに、4・5週に大きな山が、8・9週に小さな山がみられた。これは、いわゆる診療間隔で指摘されている傾向と同一である。総患者数の現行の推計方法では、平均診療間隔の算定対象の診療間隔が30日以下に限定され、診療間隔分布の5週以降を含まない。新しい推計方法では、算定対象の診療間隔が91日以下に拡大され、診療間隔分布の13週までを含む。これより、総外来患者の診療間隔分布と平均診療間隔をみる上で、新しい推計方法に基づくことが適切と考えられる。

年齢階級別に総外来患者の診療間隔分布をみると、40歳以上では、前述の大きな山と小さな山があるものの、39歳以下では4・5週の大な山と8・9週の小さな山ともに、はっきりしなかった。この理由としては、39歳以下と40歳以上で傷病に大きな違いがあること、および、傷病によって診療間隔分布に大きな違いがあることが挙げられる。

全傷病の総外来患者の平均診療間隔をみると、男性では40歳以上が39歳以下よりも長い傾向であり、一方、女性では40～64歳が長い傾向であった。さらに、傷病大分類ごとに、年齢階級による違いの傾向をみると、全傷病とは必ずしも一致していなかった。この理由としては、前述の通り、傷病による違いが考えられるが、さらに、傷病によっては、総外来患者の平均診療間隔は年齢階級の間で違いがみられた。今後、より詳しく解析することが重要であろう。

総患者数推計の応用として、昨年度は総外来患者の診療間隔の傷病の特性と年次推移を観察した。その観察によって、総外来患者の平均診療間隔が傷病によって大きく異なること、多くの傷病で年次とともに延長していることなどの知見を得た。本年度は前述の通り、総外来患者の診療間隔を性・年齢階級別および傷病・性・年齢階級別に観察し、いくつかの傾向を示した。以上より、患者の診療間隔の動向把握等において、新しい推計方法による総外来患者の診療間

隔を応用することが有用と考えられた。当初の計画通り、2年間の研究目的を達成したと考えられる。

E. 結論

2年計画の最終年度として、昨年度の集計結果を用いて、総外来患者の診療間隔を性・年齢階級別に観察した。2014年の総外来患者の平均診療間隔をみると、男性では0～19歳が36.4日、20～39歳が36.9日、40～64歳が39.5日、65歳以上が39.4日であり、40歳以上が39歳以下よりも長い傾向であった。女性ではそれぞれ36.8日、35.7日、39.4日、37.1日であり、40～64歳が長い傾向であった。これらの傾向には傷病による違いがみられた。昨年度と本年度の研究結果から、患者の診療間隔の動向把握等において、新しい推計方法による総外来患者の診療間隔を応用することが有用と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 橋本修二, 川戸美由紀, 山田宏哉, 齊藤千紘, 三重野牧子, 久保慎一郎, 野田龍也, 今村知明, 谷原真一, 村上義孝. 患者調査における総患者数の推計の妥当性と応用に関する研究. 厚生指標, 2018;65(12):1-6.

2. 学会発表

- 1) 橋本修二, 川戸美由紀, 山田宏哉, 三重野牧子, 久保慎一郎, 野田龍也, 今村知明, 谷原真一, 村上義孝. 患者調査の総患者数の推計の検討 第1報 新しい推計方法とその応用. 日本公衆衛生学会, 2018.
- 2) 村上義孝, 川戸美由紀, 山田宏哉, 橋本修二, 三重野牧子, 久保慎一郎, 野田龍也, 今村知明, 谷原真一. 患者調査の総患者数の推計の検討 第2報 国民生活基礎調査の総傷病数との比較. 日本公衆衛生学会, 2018.
- 3) 川戸美由紀, 橋本修二, 山田宏哉, 三重野牧子, 久保慎一郎, 野田龍也, 今村知明,

谷原真一，村上義孝．患者調査の総患者数の推計の検討 第3報 総外来患者の診療間隔．日本公衆衛生学会，2018．

- 4) 三重野牧子，橋本修二，川戸美由紀，山田宏哉，久保慎一郎，野田龍也，今村知明，谷原真一，村上義孝．患者調査の総患者数の推計の検討 第4報 脳血管疾患の特定把握．日本公衆衛生学会，2018．

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

図1. 性別、総外来患者の診療間隔分布：2014年

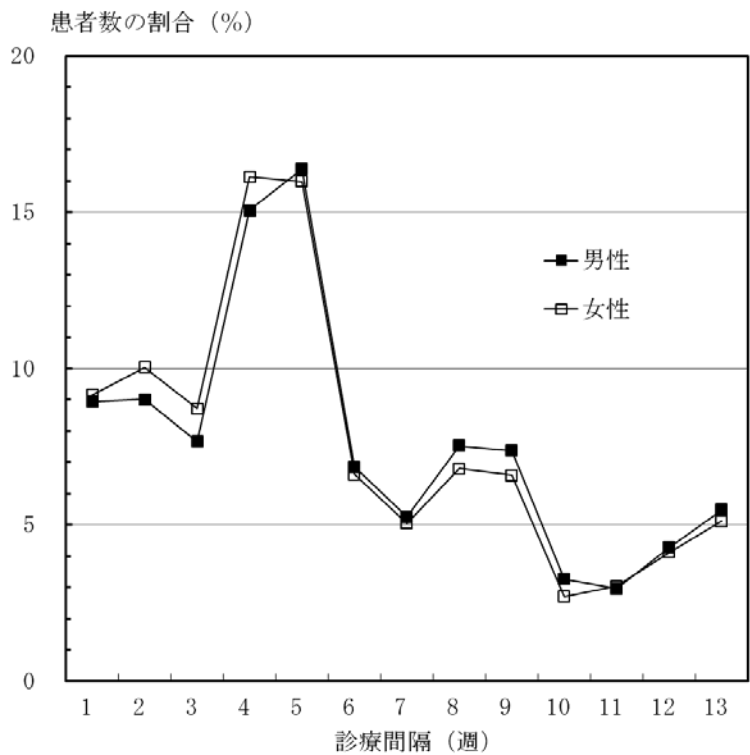


図2. 年齢階級別、総外来患者の診療間隔分布：男性、2014年

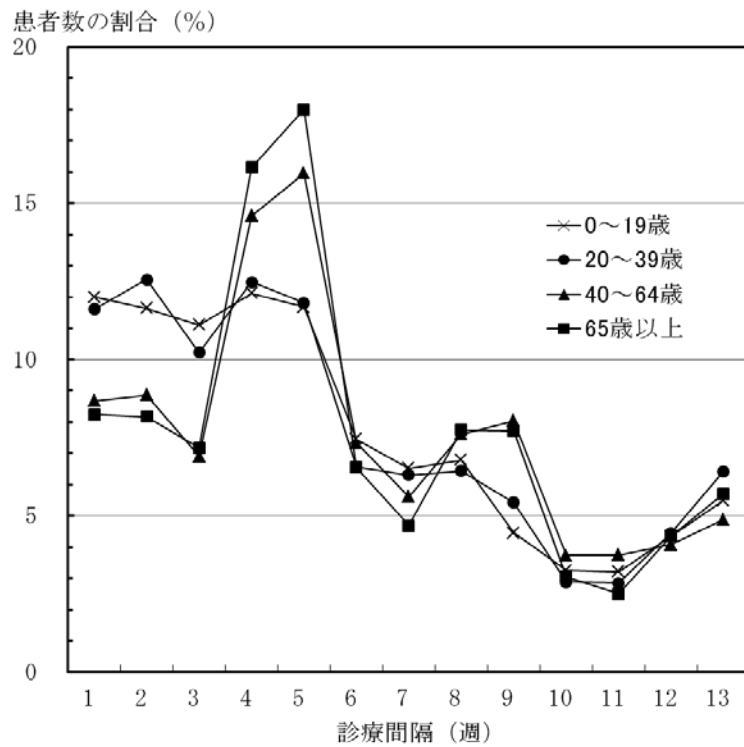


図3. 年齢階級別、総外来患者の診療間隔分布：女性、2014年

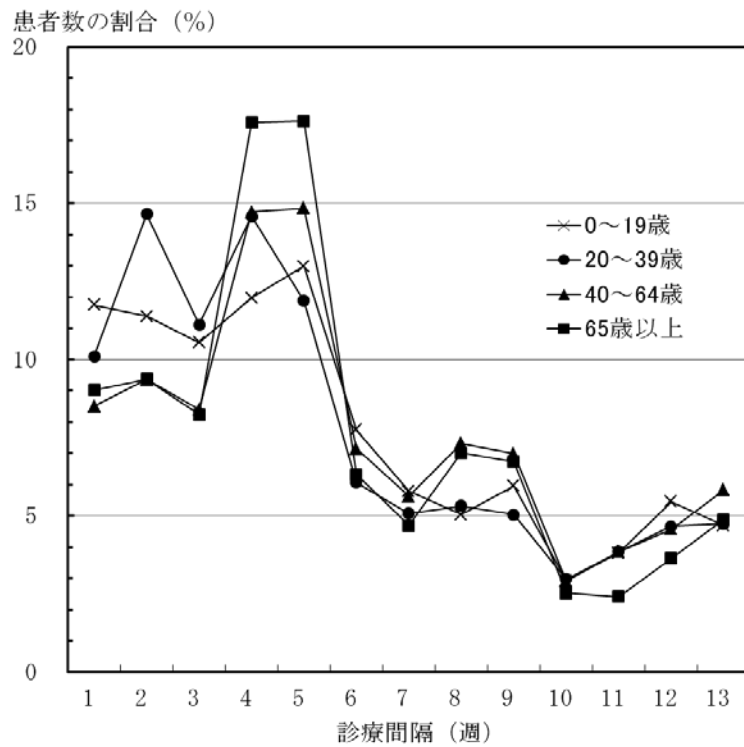


表 1-1. 年齢階級別別、総外来患者の平均診療間隔：男性、2014 年、傷病大分類（前半）

傷病大分類	総外来患者の平均診療間隔（日）				
	全年齢	0～19歳	20～39歳	40～64歳	65歳以上
全傷病 [#]	38.98	36.40	36.90	39.54	39.39
I 感染症及び寄生虫症	37.62	27.44	37.93	40.53	39.64
腸管感染症	33.36	26.18	34.41	45.99	30.75
結核	45.19	49.81	38.24	39.62	48.50
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	29.36	27.24	36.28	28.69	29.45
真菌症	42.23	34.69	41.41	42.26	42.78
その他の感染症及び寄生虫症	40.71	25.87	37.92	44.41	40.71
II 新生物	49.93	44.36	42.92	46.71	51.00
（悪性新生物）（再掲）	50.41	46.04	43.76	47.09	51.28
胃の悪性新生物	47.16	-	63.98	47.21	46.98
結腸及び直腸の悪性新生物	47.91	-	27.04	44.15	49.33
気管，気管支及び肺の悪性新生物	44.53	-	22.63	45.46	44.38
その他の悪性新生物	52.65	46.14	45.96	48.39	53.67
良性新生物及びその他の新生物	45.94	43.37	42.03	45.03	47.51
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	45.33	36.57	47.13	45.03	47.46
貧血	41.04	35.22	37.15	40.61	43.10
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	49.47	38.14	51.98	48.95	52.11
IV 内分泌，栄養及び代謝疾患	42.55	45.91	44.28	44.57	40.89
甲状腺障害	53.25	55.66	58.78	54.92	48.69
糖尿病	41.80	41.73	40.31	43.70	40.71
その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	43.14	44.43	43.71	45.22	40.77
V 精神及び行動の障害	33.24	39.61	30.95	31.90	34.66
統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	27.98	29.76	26.88	27.98	29.48
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	31.56	31.34	30.09	31.12	34.01
神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	38.35	40.11	33.03	39.83	41.74
その他の精神及び行動の障害	35.44	40.27	34.88	28.92	32.21
VI 神経系の疾患	42.66	47.56	48.08	41.89	40.88
VII 眼及び付属器の疾患	52.65	54.11	57.12	53.70	51.95
白内障	52.58	37.00	39.12	52.94	52.65
その他の眼及び付属器の疾患	52.68	54.13	57.71	53.80	51.61
VIII 耳及び乳様突起の疾患	32.97	29.98	36.54	36.89	32.54
外耳疾患	39.17	52.68	31.30	37.47	30.12
中耳炎	24.70	21.97	26.04	34.02	25.17
その他の中耳及び乳様突起の疾患	35.16	34.00	41.82	33.70	33.79
内耳疾患	36.50	37.99	47.44	35.99	35.26
その他の耳疾患	38.70	44.75	37.87	40.11	37.77
IX 循環器系の疾患	39.80	43.61	41.89	42.85	38.43
高血圧性疾患	37.30	37.44	40.93	41.00	35.35
（心疾患（高血圧性のものを除く）（再掲））	45.43	48.49	46.03	50.21	43.87
虚血性心疾患	47.09	14.68	48.21	51.08	45.82
その他の心疾患	43.64	49.02	45.32	49.27	41.71
（脳血管疾患）（再掲）	44.34	55.67	45.44	46.80	43.78
脳梗塞	43.51	12.76	46.05	45.76	43.13
その他の脳血管疾患	46.55	62.15	44.91	48.46	45.79
その他の循環器系の疾患	46.85	33.97	39.72	45.86	48.07

[#]：全傷病の総患者数は参考（推計の対象外）。 -：該当患者がなしまたは少ない。

表 1-2. 年齢階級別別、総外来患者の平均診療間隔：男性、2014 年、傷病大分類（後半）

傷病大分類	総外来患者の平均診療間隔（日）				
	全年齢	0～19歳	20～39歳	40～64歳	65歳以上
X 呼吸器系の疾患	34.91	31.17	39.49	38.08	36.77
急性上気道感染症	29.46	27.35	32.26	33.73	32.15
肺炎	31.23	22.51	31.91	29.99	33.32
急性気管支炎及び急性細気管支炎	25.23	26.43	20.92	22.10	26.15
気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	39.60	48.00	21.45	40.82	38.95
喘息	38.21	34.94	45.63	42.31	38.20
その他の呼吸器系の疾患	35.00	30.40	41.33	37.75	36.05
X I 消化器系の疾患	33.56	33.29	30.20	33.62	34.63
う蝕	24.11	28.17	25.52	20.85	22.92
歯肉炎及び歯周疾患	37.49	46.32	34.63	37.00	37.52
その他の歯及び歯の支持組織の障害	22.40	21.75	19.19	24.48	21.50
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	41.49	34.26	40.44	42.58	40.91
胃炎及び十二指腸炎	36.78	27.03	38.72	39.74	34.58
肝疾患	39.69	44.18	41.49	42.93	36.87
その他の消化器系の疾患	41.77	42.49	44.84	41.59	41.31
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	42.97	41.37	46.57	44.13	40.82
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	31.96	29.50	33.73	35.00	30.44
炎症性多発性関節障害	42.64	28.72	41.29	45.26	40.57
脊柱障害	30.21	29.52	32.66	31.80	29.35
骨の密度及び構造の障害	36.63	39.17	32.97	45.53	35.57
その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	29.73	28.97	31.20	32.74	28.37
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	46.22	49.05	48.08	45.02	46.47
糸球体疾患、腎尿管間質性疾患及び腎不全	30.69	50.42	40.93	29.59	28.99
乳房及び女性生殖器の疾患	54.73	23.17	73.24	54.63	56.22
その他の腎尿路生殖器系の疾患	50.51	47.93	51.48	51.13	50.34
X V 妊娠、分娩及び産じょく	-	-	-	-	-
流産	-	-	-	-	-
妊娠高血圧症候群	-	-	-	-	-
単胎自然分娩	-	-	-	-	-
その他の妊娠、分娩及び産じょく	-	-	-	-	-
X VI 周産期に発生した病態	46.98	46.98	-	-	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	48.89	47.24	56.34	46.05	53.91
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	42.58	41.68	31.73	40.14	45.46
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	27.75	28.68	26.20	25.66	30.14
骨折	26.90	19.76	29.04	28.17	29.38
その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	28.21	33.61	25.19	24.25	30.62
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	28.66	41.65	28.52	24.97	25.81
正常妊娠・産じょくの管理	-	-	-	-	-
歯の補てつ	17.88	17.43	15.28	18.40	17.93
その他の保健サービス	41.87	42.13	45.76	44.52	40.05

-：該当患者がなしまたは少ない。

表 2-1. 年齢階級別別、総外来患者の平均診療間隔：女性、2014 年、傷病大分類（前半）

傷病大分類	総外来患者の平均診療間隔（日）				
	全年齢	0～19歳	20～39歳	40～64歳	65歳以上
全傷病 [#]	37.60	36.81	35.71	39.42	37.13
I 感染症及び寄生虫症	35.98	26.94	33.83	38.14	38.12
腸管感染症	29.43	25.71	31.00	27.32	33.30
結核	44.49	25.93	48.21	49.22	42.29
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	29.57	27.03	31.20	30.65	30.48
真菌症	38.88	26.14	30.31	39.11	41.64
その他の感染症及び寄生虫症	40.48	27.66	45.74	44.67	38.74
II 新生物	48.37	47.35	44.30	49.00	48.64
（悪性新生物）（再掲）	49.22	48.91	48.07	50.22	48.70
胃の悪性新生物	43.74	-	38.02	43.34	43.97
結腸及び直腸の悪性新生物	47.13	-	36.88	45.96	47.74
気管、気管支及び肺の悪性新生物	45.74	-	47.49	48.84	44.74
その他の悪性新生物	50.58	49.99	49.03	51.19	50.29
良性新生物及びその他の新生物	46.35	46.98	42.70	46.70	48.36
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	40.98	40.06	32.87	42.51	44.94
貧血	38.06	34.34	31.46	40.89	41.12
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	47.88	46.83	40.79	48.24	49.46
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	41.84	51.37	45.86	45.71	39.23
甲状腺障害	52.58	61.35	53.60	55.62	47.33
糖尿病	40.18	35.54	42.03	43.17	38.91
その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	40.35	48.92	39.80	43.75	38.32
V 精神及び行動の障害	33.34	35.88	31.96	32.08	35.40
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	31.07	21.77	30.87	29.43	34.93
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	33.05	26.29	30.53	31.48	36.62
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	35.05	32.43	34.08	34.74	36.75
その他の精神及び行動の障害	33.93	39.66	33.21	33.38	31.64
VI 神経系の疾患	41.96	46.09	47.40	45.78	39.26
VII 眼及び付属器の疾患	53.70	55.69	60.97	55.46	52.38
白内障	52.79	0.00	42.25	52.13	52.87
その他の眼及び付属器の疾患	54.03	55.69	61.01	55.87	52.11
VIII 耳及び乳様突起の疾患	33.46	30.18	37.79	32.03	34.78
外耳疾患	33.60	26.12	50.40	30.65	32.46
中耳炎	27.59	27.18	23.84	27.45	28.44
その他の中耳及び乳様突起の疾患	31.60	41.37	28.20	33.39	28.51
内耳疾患	37.70	20.86	36.29	35.58	39.41
その他の耳疾患	36.61	47.57	37.51	29.89	37.28
IX 循環器系の疾患	36.18	43.03	45.29	41.22	34.73
高血圧性疾患	34.81	37.88	46.41	39.93	33.27
（心疾患（高血圧性のものを除く）（再掲））	39.94	50.38	46.51	45.00	38.89
虚血性心疾患	40.73	25.45	58.31	44.68	39.96
その他の心疾患	39.39	51.95	43.53	45.23	38.12
（脳血管疾患）（再掲）	41.23	37.15	54.10	52.35	39.29
脳梗塞	39.94	13.58	43.21	52.56	38.25
その他の脳血管疾患	44.76	41.09	64.80	52.00	42.47
その他の循環器系の疾患	44.44	38.62	38.94	46.44	44.53

[#]：全傷病の総患者数は参考（推計の対象外）。 -：該当患者がなしまたは少ない。

表 2-2. 年齢階級別別、総外来患者の平均診療間隔：女性、2014 年、傷病大分類（後半）

傷病大分類	総外来患者の平均診療間隔（日）				
	全年齢	0～19歳	20～39歳	40～64歳	65歳以上
X 呼吸器系の疾患	34.80	31.03	37.75	37.84	34.65
急性上気道感染症	30.65	28.75	31.51	35.03	29.18
肺炎	32.02	17.02	40.20	43.25	30.12
急性気管支炎及び急性細気管支炎	24.17	23.18	22.68	27.87	23.77
気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	36.30	35.33	26.58	34.36	37.46
喘息	37.99	34.42	41.26	41.16	36.67
その他の呼吸器系の疾患	35.79	32.08	41.57	36.90	35.25
X I 消化器系の疾患	32.12	31.12	27.10	33.13	32.93
う蝕	24.04	27.90	22.93	24.38	21.70
歯肉炎及び歯周疾患	34.91	39.13	28.54	36.05	34.81
その他の歯及び歯の支持組織の障害	20.65	21.96	20.70	22.36	18.16
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	41.48	27.21	41.82	42.13	41.10
胃炎及び十二指腸炎	38.56	62.83	38.77	40.22	36.40
肝疾患	41.00	32.52	39.76	46.74	38.37
その他の消化器系の疾患	38.80	34.76	35.37	40.12	39.05
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	41.38	41.44	42.04	42.02	40.02
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	32.93	36.45	35.30	35.25	32.05
炎症性多発性関節障害	41.91	39.04	41.91	45.26	39.67
脊柱障害	29.55	37.70	30.54	30.47	29.12
骨の密度及び構造の障害	38.99	34.22	56.34	46.24	38.09
その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	31.34	35.65	37.64	34.03	30.15
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	41.11	47.34	38.76	41.92	41.84
糸球体疾患、腎尿管間質性疾患及び腎不全	33.21	51.36	46.49	34.42	29.83
乳房及び女性生殖器の疾患	41.98	46.47	38.60	42.58	50.35
その他の腎尿路生殖器系の疾患	43.81	45.17	35.39	44.50	44.29
X V 妊娠、分娩及び産じょく	20.47	-	20.55	-	-
流産	23.65	-	25.48	-	-
妊娠高血圧症候群	26.22	-	27.59	-	-
単胎自然分娩	25.70	-	25.90	-	-
その他の妊娠、分娩及び産じょく	19.56	-	19.49	-	-
X VI 周産期に発生した病態	47.17	47.17	-	-	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	47.48	46.82	51.51	45.89	48.15
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	38.76	43.03	31.42	37.89	40.33
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	29.33	30.18	24.88	25.13	32.00
骨折	31.64	20.61	30.63	26.58	34.07
その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	27.19	33.26	23.41	24.29	28.23
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	31.54	41.67	30.16	29.41	30.31
正常妊娠・産じょくの管理	22.89	-	22.85	-	-
歯の補てつ	20.68	18.28	18.28	21.59	20.57
その他の保健サービス	44.08	42.50	46.60	44.66	43.87

-：該当患者がなしまたは少ない。